

公表

事業所における自己評価総括表(児童発達支援)

○事業所名	きらりはーと浦添校		
○保護者評価実施期間	令和7年 2月 25日 ～ 令和7年 4月 12日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4 (回答者数)	2
○従業者評価実施期間	令和7年 2月 1日 ～ 令和7年 2月 25日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6 (回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 4月 12日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	発達心理学を基にした体育（運動療育）を中心に身体能力の向上と社会適応を目指した療育を行っていること。	サーキット運動によりマット、跳び箱、平均台などを組み合わせたコースを作り、様々な動きを体験することで、全身の協調性やバランス感覚を養っていく。手や目の協調性、距離感、空間認知能力などを養う取り組みや、視覚機能トレーニングにより目と手の協調運動や、動体視力、空間認知能力などを高めるトレーニングへの取り組み。	子どもたちの体操能力に合わせた、個別のメニューを組み取り入れたり、チャレンジタイムという体操時間を作り、普段行っているサーキット運動で行わない種目や技を取り入れ、個別での対応を行っている。
2	将来の自立生活に向けた、日常生活に必要なスキルの練習。	ロールプレイを通して、自己紹介、質問、断り方などを練習したり、グループワークを通して、協力、役割分担、意見交換などを練習している。	整理整頓、マナー、ルール理解、金銭管理、公共交通機関の利用、調理などへの取り組み。
3	季節に応じた行事やイベント、工作やクッキング、長期休みの遠足。	自主性や創造性を育ませるため、子どもたちが運営に参加。仮装やゲームを通して、創造性や表現力を育み、楽しい思い出を作りを行う。	新しい場所や環境に触れることで、子どもたちが様々な経験をし、適応力を高める取り組み。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士との繋がりや他事業所との交流する機会の提供。	コロナウイルスや感染症対策での長い閉鎖的な考えや、ソーシャルディスタンスによる懸念。	企画をしており、行事やイベント、保護者会やお茶会など年間スケジュールに組み込んでいる。
2			
3			